

令和 5 年度文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業

【事業名】 古川タクの作品・活動アーカイブ

【団体名】 有限会社タクンボックス

【概要】 1964 年から個人作家として短編アニメーションを制作し、国際映画祭で評価を得てきた古川タクの作品および関連資料のアーカイブを実施する。1960 年代の草月アートセンターを中心とした芸術文化に端を発する個人制作アニメーションのアーカイブは、関係者の高齢化による内容把握の困難さと資料劣化が差し迫る危機的な状況にある。本事業では草月アニメーション・フェスティバルに参加し、国際的なアニメーション作家として活躍を続ける古川タク氏の活動を軸に、古川氏の自宅に置かれているフィルム・資料を適切な環境下に移動し、継続的な調査、管理、公開を行う。とくにフィルムデジタル化、資料整理、リスト作成、作家ヒアリング、ウェブサイトでの資料公開、簡易アーカイブマニュアルの頒布を行い、60 年代以降の個人制作アニメーション作品の文化的背景、資料価値を伝え、各資料へのアクセス性の向上を図る。

【体制】



【成果物】

- ・ デジタルデータ：フィルムから 21 作品（短編アニメーション 4 作品、展示アニメーション 1 作品、TV 用パートアニメーション 1 作品、CM15 作品）
- ・ デジタルデータ：磁気テープ（VHS、U-matic）から 72 点
- ・ 資料リスト：「短編アニメーション中間素材、イラストレーション、映像データ」2023 年版
- ・ 作品リスト：「短編アニメーション作品（フィルム・デジタル）」
- ・ 記録（映像・文章）：オーラルヒストリー 3 点
- ・ 資料整理マニュアル：「個人アニメーション作家のためのアーカイブマニュアル」2023 年版

【公開方法】

- 令和 6 年 2 月 5 日：ウェブサイト「TAKU FURUKAWA ARCHIVE」にて、以下を公開。
<https://archiveanimation.wordpress.com/>

- ・ 作品リスト「短編アニメーション作品（フィルム・デジタル）」
- ・ インタビュー「『驚き盤』（1975）ができるまで」（インタビュアー：岩井俊雄、橋本典久）
- ・ インタビュー・英訳「The Phenakistoscope Era (c. 1975)」
- ・ 資料整理マニュアル「個人アニメーション作家のためのアーカイブマニュアル」2023 年版

『驚き盤』（1975）ができるまで

English is here

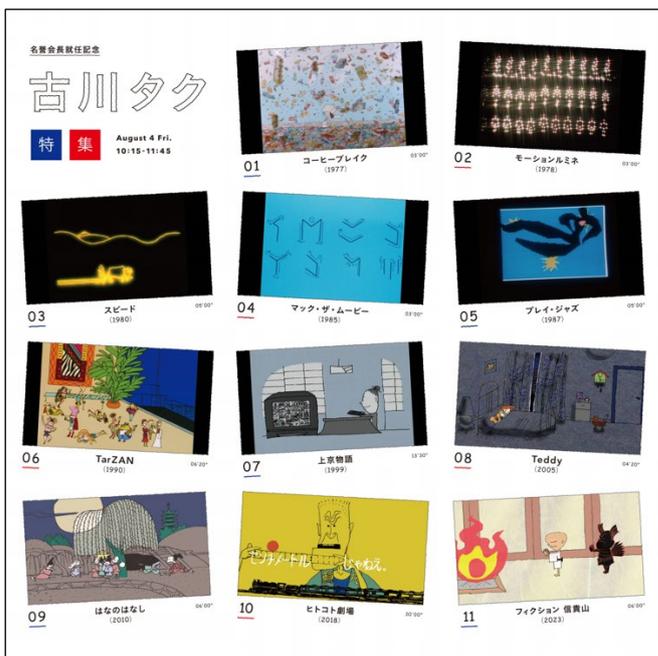


インタビュアー：橋本典久、岩井俊雄
2023年10月26日、古川タクの自宅にて実施

インタビュー「『驚き盤』（1975）ができるまで」ウェブページ見本

●令和5年8月4日：「イントゥ・アニメーション8」（令和5年8月4日～7日・国立新美術館）、「名誉会長就任記念 古川タク特集」にてデジタル化したフィルム作品（6作品）、およびデジタル作品を上映。

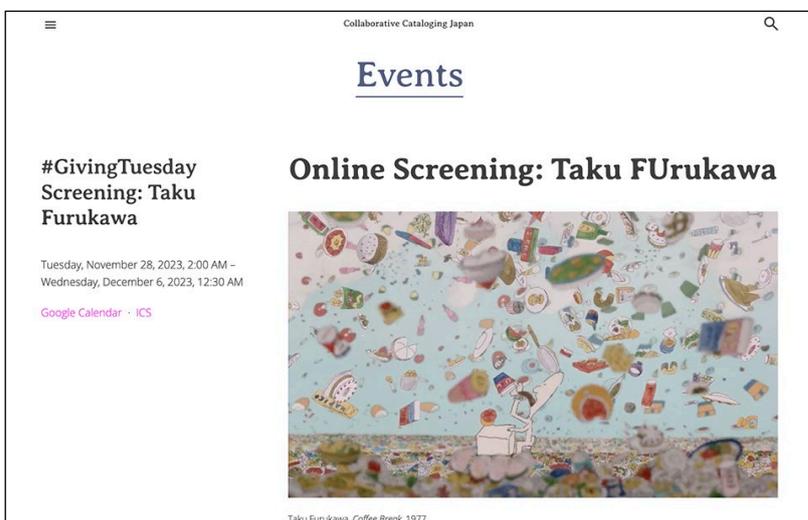
https://into-anim.localinfo.jp/pages/7154766/page_202307241401



「名誉会長就任記念 古川タク特集」広報用サムネイル

●令和5年11月28日～12月6日：「Online Screening: Taku FUrakawa」にてデジタル化したフィルム作品（1作品）、およびデジタル作品をオンライン上映。

<https://www.collabjapan.org/events/2023/taku-furukawa>



「Online Screening: Taku FUrakawa」ウェブページ

【文化的・社会的・経済的な意義】

資料整理、デジタルデータの活用により、個人制作アニメーションの歴史的な芸術・文化価値を伝える。

1960年代から個人アニメーション作家として活躍する古川タクの作品資料を整理、目録化し、一部を公開した。これにより70～80年代におけるフィルムを用いた個人制作アニメーションの表現性、文化的背景（クライアントワークとしてのアニメーション）への関心を高めることを目指した。

今年度のフィルム整理においては、草月上映作品、CMアニメーション、大阪ソニータワーでの展示に使用したインスタレーション用アニメーション等をデジタル化した。今後これらのデジタルデータの上映、調査が行われることで、アニメーション文化の研究促進が期待される。

昨年度に取得したデジタルデータの活用として、国立新美術館での上映（令和5年8月4日）および海外の観客に向けたオンライン上映（令和5年11月28日～12月6日）を行った。資料整理に基づく公開、上映を継続的に行うことで、アニメーションアーカイブの活用例を示し、短編アニメーションの歴史的、文化的価値を提示する。

作品ヒアリング（英訳あり）の公開により、映像・アニメーション史研究に貢献する。

映像およびアニメーションのルーツであり、子どもたちへのアニメーション指導や情操教育に活用されている「驚き盤」を国内に普及した古川氏の活動、および氏の代表作である『驚き盤』（1975）についてのヒアリングを実施し、テキストを公開した。

映像作家の岩井俊雄氏と映像研究者の橋本典久氏がインタビュアーを務め、詳細な聞き取りを行った。結果、岩井氏が専門とするメディアアートに通じる電動装置による「驚き盤」の制作と、モーター駆動による造形作品を制作していた伊藤隆道氏のアトリエ関係者による協力があったことなど、70年代における領域横断的なつながりも記録することができた。資料整理によって明らかになった中間素材や映像を閲覧しながらヒアリングを行うことで、国内アニメーション史におけるアーカイブ資料の研究活用の事例ともなった。

アニメーションアーカイブの簡易マニュアル頒布により、個人アニメーション作家の資料保護、保管を推進する。

高齢化が進む個人アニメーション作家や、その周囲の人々が作品を管理するために参照できる簡易マニュアルを作成し、日本アニメーション協会に共有するとともに、一般にも公開した。

本マニュアルは専門家の助言に基づきながら、一般家庭においても作業可能な内容を示すことで、個人が抱える重要な資料を保護し、散逸防止になることを目指している。アーカイブには厳密な規則があるのではないかという作業者の過度な不安を払拭し、平易な読み味になることと、安価な用具を紹介し、実践的な内容になることを心がけた。昨年度に助言を仰いだ美術館関係者およびアニメーション・アーキビストである山川道子氏（Production I.G）の方法を基にししながら、今年度も久保仁志氏（慶應義塾大学アート・センター）のサポートを受けて作成した。

【残課題】

整理した資料、中間素材の恒常的な保管場所を見つけられていない。古川タク氏の作品のみならず、国内短編アニメーション作品の資料研究、展示活用等を活性化させるための団体、施設の設立を模索している。